

例えば、立候補で選ばれた班長会による非公開班編成という方法もひとつ間違えば危険な方法です。例えばキャンプなどの行事のための班編成で“陰の勢力”を形成した班長たちが有無を言わず当選し、自分たちの都合の良い班をつくって自分たちだけが楽しい思いをしようとするようなケースは常に起きます。

そういう“気配”を感じたときに、そのおかしさを生徒達が指摘できるような土壌づくりをし、ノリで出てきた班長を不承認にできる集団が優れた集団なのだということを機会を捉えて教え、同時に失敗した生徒にも名誉回復の機会が与えられ、反省している子には復活できることも教えていくのです。

先に紹介した私のクラスでは、女子 HR 委員にアメリカ現地校出身の B さんが就任し、活発にクラスをリードしていましたが、秋に異変が起きました。

9月編入試験でアメリカから入学した女子生徒 C さんがものすごく努力家で、スポーツ万能、明るく前向きな性格だったため一躍人気者になってしまったのです。面白くない B さんは反 C さん連合を陰で形成し、C さんとその周りに対し陰口を始めました。

その時期、茗溪ではクラス対抗の合唱コンクールの取り組みが行われていました。担任の私は全員の心がひとつになる必要性を問いかけていた頃、その陰口はピークに達していました。

茗溪学園では通学生でも一定期間寮に入って寮生活を体験するという短期入寮という行事がありますが、ちょうどその短期入寮の時期でもあり、クラス全員が寮に入っていました。

入寮中は4人部屋で非常に濃密な人間関係になるため、この陰口の問題が一気に噴き出しました。C さんやその仲のよい人たちに対する陰口を、B さん達（反 C さん連合）から強いられる中立の立場の子たちが「もうこんな状況はいやだ」と訴えかけたのです。

担任の私は、夜、女子全員を寮の一室に集め、全員に思っていることをすべて話すように求めました。そこから「HR 委員 B さんの C さんへの攻撃が不当である」こと、「それに加担させられることがいかに苦痛だったか」ということ、「C さんに申し訳ない」ということと同時に、C さん達からも「自分たちの嫉妬とそこから後戻りできなくなってしまったことの苦しさ」が素直に表出されました。全員号泣の中での話し合いでした。しかし、ここを乗り越えて子ども達は成長していきました。

田代 淳一（たしろ じゅんいち）

茗溪学園中学校高等学校 教務部長・教員（化学）



茗溪学園では前向きで明るく逞しく積極的な青年が育っています。

「有名大学に行きたいから勉強する」のではなく、「中学・高校時代にいろいろな事に挑戦し、失敗し、考え、自分を探して、自分で自分の将来をみつけ、自分で歩いていく。その方向が地球を救い、人類の未来を拓く方向であってほしい。」そう考え、支援するのが茗溪学園の教員の役割です。

海外生・帰国生が自分の力で自分の未来を切り拓いてきた経験はここで開花します。

どのクラスにも似たようなドラマと成長があります。中学3年になった最初の HR 委員選挙に立候補した女子生徒 D さんは、「去年のクラスでの学級総会での司会がまずいと言われたので、あと1年やらせてください。一生懸命やります。みんな私の悪いところがあつたらどんどん言うてください。直して、みんなのためになるクラスにしますので、どうかもう一年やらせてください。」と、演説で訴えました。この D さん（メキシコからの海外生で寮生でしたが）の訴えには真実がありました。当然、当選しました。

2 学年指導の中で

中学3年は12月に国内研修旅行という、永平寺での参禅、奈良・京都での班別テーマ学習という4泊5日の全員参加のイベントがあります。

その準備のために7月に研修旅行用の特命学年リーダー（茗溪ではチーフリーダーと呼んでいます）の選出の学年総会がありました。各クラスから選出された候補者が学年生徒から信任を問われる総会です。そこであるクラスから選出された E 君は、実に軽薄な演説をしてしまいました。普段から多少ふざけ気味だった E 君、この承認会でも笑いをとって承認されようと考えたようです。しかし、さすがに「民主的な集団とは何か」のトレーニングを受けてきた生徒たちの3年目、E 君には手厳しくその態度の悪さや誠実さの不足を指摘する発言が相次ぎ、不承認となり、クラスから選出し直しとなりました。ただ、クラスでは反省した E 君が今度は誠心誠意に再立候補。次の学年総会で心から詫びて承認されました。

Social Skills とは単に対人関係を学ぶだけでは身に付かないと考えています。少なくとも3年間かけて、誰でも安心して正当なことが主張できる環境の中で体験的に学んでいくものであると。その過程では激しい衝突も、阿鼻叫喚も大激論も当然あります。ときには落ち込み、時には号泣します。でもその過程を経て身につけた友人との距離感は一生涯のものになると信じています。

人と人とのつきあいに本当の自信を身につけることが真の Social Skill Training だと考えて私たちは実践しています。

茗溪学園中学校高等学校

〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前 1-1

TEL. 029(851)6611（代）FAX. 029(851)5455

www.meikei.ac.jp



茗溪学園が実践している Social Skills のトレーニングの具体的な報告です。

いつものことですが、スキルのトレーニングが、茗溪学園の中高6年間や1年間の学年・学級の様々な活動の中に、学校・教員の教育的意図として組み込まれていることに、感心だけではなく、驚きすら覚えます。さらに、このカリキュラムが開校時から伝統的に続けられているとお話を田代先生からお聞きして、驚きを新たにしました。

機会があれば、このトレーニングを受けた中学・高校生が、どんな感想を持っているか、聞いてみたいものです。お願いします、田代先生。